

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科 昼間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	言語学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期 金曜1限	教室名	4校舎401
担 当 教 員	松井 理直	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
ことばにおける記号としての性質, 記号の最小単位としての形態素, 語の構造, 文の構造, 意味の基本について解説する。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)によって成績を評価, 60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書として『言語聴覚士のための基礎知識:音声学・言語学』(医学書院, 今泉敏編集)を用いる。 また補助資料としてプリントを配布する。参考図書は適宜授業中に紹介する。						
《授業外における学習方法》						
必ずその日の内に復習を行い, 授業で習った内容についてきちんと理解すること。復習時に疑問点が出てくれば, 必ず次の授業の最初に質問すること。						
《履修に当たっての留意点》						
わからない点があれば, その時点で必ず授業をとめて, 質問をするようにしてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	言語聴覚士になるためになぜ言語学が必要かを知る。また言語における記号の性質について理解を深め説明できる。		教科書とハンドアウト。	記号とは何か、記号表現(シニフィアン)と記号内容(シニフィエ)との関係である恣意性・有契性といった基本概念について必ず復習すること。	
	各コマにおける授業予定	記号の性質とことばとの関係。				
第2回	授業を通じての到達目標	言語の基本的な性質について理解を深め説明できる。		教科書とハンドアウト。	ことばが持っている二重分節性・線条性・構造といった基本概念について必ず復習すること。	
	各コマにおける授業予定	ことばの二重分節性・線条性・構造				
第3回	授業を通じての到達目標	音声の基本的性質について理解を深め説明できる。		教科書とハンドアウト。	シニフィアンとしての音声・音韻の特別性、音声と音韻の区別について復習しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	シニフィアンとしての音声・音韻				
第4回	授業を通じての到達目標	発声と調音位置・調音方法について理解を深め説明できる。		教科書とハンドアウト。	発声における有声・無声の違い、調音位置の名称、構音方法の違いについて復習しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	発音における発声・調音位置(構音点)・調音方法(構音法)				
第5回	授業を通じての到達目標	日本語の母音と子音について理解を深め説明できる。		教科書とハンドアウト。	日本語の母音と子音が基本的などのように発音されているかについて復習しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	日本語における母音と子音の発音				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	モーラと音節について理解を深め説明できる。	教科書とハンドアウト。	日本語のリズム単位であるモーラと、母音を中心とした構造である音節について復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	日本語のモーラと音節		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	表音文字・表語文字の違い、漢字における六書の分類について理解を深め説明できる。	教科書とハンドアウト。	表音文字と表語文字の定義、および漢字の分類について必ず復習し、内容を理解しておくこと。
		各コマにおける授業予定	シニフィアンとしての文字の種類と表語文字としての漢字。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	和語・漢語・借用語の区別と漢字の音読み・訓読みについて理解を深め説明できる。	教科書とハンドアウト。	和語・漢語・借用語の違いを理解し、また漢字に音読みと訓読みがある理由について人の説明できるくらいまで復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	日本語の語種と漢字の音読み・訓読み。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	かな文字の成立とその性質について理解を深め説明できる。	教科書とハンドアウト。	かな文字の性質、モーラの性質について理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	かな文字とモーラ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	記号の最小単位としての形態素について理解を深め説明できる。	教科書とハンドアウト。	形態素の定義および日本語の形態素分析ができるくらいまで復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	形態素の導入。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	異形態の概念を理解すると共に、異形態を見つけることができるようになる。	教科書とハンドアウト。	異形態の定義を理解し、異形態を見つけることができるようになるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	異形態について。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内容形態素・拘束形態素について理解するとともに、複合語・派生語の違いを理解し説明できる。	教科書とハンドアウト。	日本語の形態素と語の関係、特に接辞について理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	形態素の種類と合成語について。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	和語形態素、漢語・借用語形態素の特性と、連濁の性質を理解し説明できる。	教科書とハンドアウト。	和語形態素の性質を理解すると共に、漢語・借用語の特徴を理解し、さらに連濁の阻止条件を理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	語種による形態素の特性と連濁		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	母音語幹動詞と子音語幹動詞の違いを理解し、日本語の膠着語としての性質を理解し説明できる。	教科書とハンドアウト。	日本語の動詞形態素を判断できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	動詞の形態素。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	テンス・ヴォイスなどの形態的特徴を理解し説明できる。	教科書とハンドアウト。	和語形態素の特徴として、動詞後続形態素の性質を理解できるまで復習すること。
		各コマにおける授業予定	動詞後続形態素		